

岩城新聞

行發日十三月九
定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
零售 每份五分
電話 二二〇三
印刷 日野印刷所

歌話 小説 伊納川 銀

「つたつた一人の足で」
「いつそそれやあ」
「あいつにや苦勞ばかりかか
つて、だが伊納川さん、あ
いつが本當に愛してゐるのは
やつぱり貴方でしたよ」
「うそだ、あいつは悪魔だ
だ」

新 歌 壇

小山田 滋 選
田 志 朗
秋の歌
山みちをせめて咲ける紅萩の光り冷たく秋
風の立つ
風吹くとみゆる氣配にむらさきの山萩の花こ
ぼれたりけり
○山の家の背戸にいつか残されし南瓜の色に
見たる秋かな
○松の木の茂れるあたりすがすがし詞一つあり
て山のしづけさ
○秋の野の芝生にまらび青空に向ひてあれば思
ふことなし

潮聲 視 靜 抄 帳

涼し、天の川、虫干
微の香のはの身に土用干 晩 霞
涼しや朝蚊帳ゆれて子の醒めず
紙魚あともなつかし父の書を眺めず
土用干あまなつかし父の書を眺めず
虫干の母また若き座敷かな
一條の雪流れゆく銀河かな
開け放つホルンの窓や灯の涼し
涼しさを足らひて句會たけにけり
虫干の縁に座布團並べけり
3 鶉の籠の限り伸ばして舟涼し
温泉の宿の長き廊下や朝涼し
叱られて裏戸出てけり天の川
母いたくやせて虫干したまはる 失 枯 名 洋 一
「君は、どうしてひろ子を
「ひろ子はもう家にやま
「せんよ」

郷土文學辨

(名詞篇)
高木氏の平地方の方言は、
二十六日附の本紙を以て
高木氏の努力に對し
批判がましい事は一切さけ
るとして、とにかく高木氏
が投げたこの郷土研究の問
題を中心として三論したい。
方言は、その地方のロー
カルカラーであり、其の地
方人の持つ共通な性格の表
現であり、ひいては地方文
化を反映する。

拈華微笑

自慢の弓道選手
今度のカケル
草津にたいに採
まないで這入れ
る様になつた替
炭のお湯問題
再た私生見識知
訴

夏

古川 哲夫
初夏の太陽に
戀の甘さを感じてゐる
今……
私の乳房は
私の甘さをそよいでゐる
そのあまやかな乳房に
初戀の甘さを
感じてゐる

社會の今日

伊藤 丘月
散る柳脈はおろかに肥
るなり

幕末神風組

高根 秀浩 著
佐吉を一人加へて本組
の組合も一層賑かになつた
から、急に本組が賑か
になつた。佐吉は、本組
の組合も一層賑かになつた
から、急に本組が賑かにな
つた。佐吉は、本組の組合
も一層賑かになつたから、
急に本組が賑かになつた。

美味で評判の

イワキサロン
平町電三五二



「浅野は暗光りに光つてゐる
佐吉の豊かな顔をしげ
組の手先さとなつて事か
あ

「浅野は暗光りに光つてゐる
佐吉の豊かな顔をしげ
組の手先さとなつて事か
あ

秋の帽子!

中野洋品店
平町電五三三番

十二屋ノ洋食部新設

電話三七三番

黒小倉通學服賣出

多かや洋服店

毛糸

今年度新色全部入荷致しました。

クレオンテールブルゲーム

佐藤玩具製作所
平町電二〇〇番

Columbia

會田時計店
平町電三六三番

貴方の御家庭に

本會を御利用下さい
直に家政婦を派出します

かまぼこ製造

折詰仕出し
藤寅
電話一四一番

